

ドゴ・アルヘンティーノ・クラブ・ジャパン (DACJ)  
公式スタンダード

2007.12.14

Koubun Wakashima, Ph.D. & Hiroyasu Massaki, M.A.  
Following Dr. Antonio Nores Martinez

Dr. アントニオ・ノレス・マルティネスによる起源的スタンダードに基づいたドゴ・アルヘンティーノ・クラブ・ジャパン (DACJ) の公式スタンダードをここに示す。一般的に全ての犬種は F C I スタンダードに基づいているが、FEDA 及び DACJ は起源的スタンダードに準拠する。

頭部 (Skull) :

硬く、後頭部から前頭部の曲線が凸状に盛り上がり、咀嚼筋と首筋の起伏が横側で交差している。

顔面 (Face) :

スカルと同じ長さ。

※ 「頭部」と「顔面」を分けたが、このふたつでドゴの「頭 (head)」が形成される。ドゴは「頭」が特徴的で、中頭タイプに属し、凹凸があり、凸状のスカルが咀嚼筋の起伏に交差しており、これは狩猟犬の、特に“咬む”タイプの特徴である。そして顔と鼻は上向きに少しくぼんでいて、その嗅覚は優れている。このように咬むための頭部、嗅覚のため (クンクンと匂いを嗅ぐことを含む) の顔である。頬骨は頭部と別の骨で、その側頭部の空洞は広々としており、咬むための筋肉が詰まっている。

眼 (Eyes) :

黒またはこげ茶色。黒または肌色のまぶたの縁で、境界は広い。陽気でスマートで、同時に厳格な眼差し。明るい色の眼と赤いまつげは減点の対象となる。

あご (Jaws) :

噛み合わせが充分で、前後に出でおらず、そして歯は強く、大きく、歯並びがよい (問題ではないことが多いが、臼歯の曲線が同質であること、虫歯がないこと、あごが上向きに突き出していない、もしくは突き出ている下向きであること、そして特に、4本の犬歯が大きくきれいであることと噛み合わせのよさが重要である)。

鼻 (Nose) :

非常に濃い黒色の色素で、てっぺんにわずかなへこみがあり、豊かな鼻孔である (白い鼻あるいは白の斑点は減点の対象となり、分離した鼻あるいは口蓋裂は失格対象となる)。

耳 (Ears) :

頭部の上に位置し、垂れている。(ドゴ・アルヘンティーノは狩猟犬であり、戦う犬であるため、長い耳はとびつかれやすく、格闘中にとっても痛々しい。そして見た目の美しさから、断耳する習慣がある。断耳する場合は、オスはより短くなければならず、メスは少々長くてもよい。)

唇 (Lips) :

上向きにめくれており、そして広がっており、へりは垂れていて、そして黒い。(垂れた部分は短くなくてはならない。というのも、獲物に咬みついているとき、唇の横側から呼吸できるようにするためである。もし唇が垂れ下がっていたら、上あごが長かったとしても、吸入の最中に唇の合わせ目が閉じてしまい、犬が呼吸するのを妨げてしまう。唇の合わせ目は獲物に咬みついている間に窒息するのを防いでくれる。垂れ下がった唇の仔犬が産まれてくることもある。)

後頭部 (Occiput) :

頭部と首筋の間をつなぐ曲線状に形成された首筋のパワフルな筋肉によって完全に隠れるため、起伏が見えてはならない。(頭部の凸状の曲線に隠れている。)

首筋 (Neck) :

太く、アーチ状に曲がり、頑丈で、喉の皮膚はととても厚く、マスティフやドッグ・ド・ボルドーやブルドッグのようにしわで覆われており、ブルテリアのように伸縮性はない。(この領域の弾力性のない皮膚はたるんでいて、戦いの最中に牙や爪によって引っかかれても肌だけが傷つくように、腱膜の表面をスライドしやすくなっている。例えば、ピューマは首に噛みつこうとするが、弾力があって十分に伸縮するので、ドゴはピューマをうまく捕らえることができる。)

#### 胸部 (Chest) :

恰幅がよく、厚く、大きな肺を持っていると感じさせてくれる。前面から見たとき、胸骨が肘よりも出ていなければならぬ。(ドゴ・アルヘンティーノは労働したり戦ったりする犬である。呼吸が重要なため、恰幅がよく、厚い胸部であることの重要性は明らかである。)

#### 背 (Back) :

高く、非常に強度があり、筋肉が大きく盛り上がっている。

#### 胸腔 (Thorax) :

恰幅がよい。側面から見たとき、低い部分は肘の位置よりもさらに低い。

#### 背線 (Topline) :

背中、尻に向かう傾斜は緩やかなスロープを描いている。

(成犬は背筋と腎臓が十分に発達しているため、側面から見たときに背骨付近の筋肉に沿って、十分に発達した背骨と腎臓を示す。)

#### 前足 (Forelegs) :

ブルドッグのようなO脚あるいはX脚ではなく、まっすぐに伸び、肘関節が内側に絞られている。つま先は短く、指は握られている。指の長さは、足全体のプロポーションを保つ範囲でなければならない。肉球は、ハンティング以外の場合でも、荒々しく、精力的に走り回ることができるように、でこぼこで厚い皮に覆われながら生き生きとしていなくてはならない。

#### 腎臓 (Kidney) :

背筋で覆われている。

#### 足 (Legs) :

大腿部は非常に筋肉質で、爪は短く、つま先は小さく握られている。狼爪はない。角度のある部分があり、戦いのときの加速をサポートするため、引き締まった筋肉が際立っている。狼爪は、生後数ヶ月の間に取り除いたとしても、グレート・ピレニーズのように劣性の身体的特徴であるため、減点の対象となる。しかし失格の理由とはならない。

#### 尾 (Tail) :

長く引き締まっている。自然にぶら下がっているが、後脚のひざを越えない。戦いの間は立っており、飼い主にじゃれついているときのように絶え間なく横方向にゆれる。この尾は非常に便利で、走っているときに方向転換の舵取りの役割をしたり、戦いのときに後脚とでん部の運動をサポートしたりする。

#### 体重 (Weight) :

40 から 45kg。

#### 体高 (Height) :

60 から 65cm。

(体重も体高も、審査員は厳密でなければならない。というのは、ドゴはビッグ・ゲームのファイティング・ドッグであるため、十分なサイズが必要である。したがってオスでもメスでも、成犬は体高が 60cm に満たなければ減点とされる。一方で、体高 65cm を大幅に越える巨大な犬は、ハンティング・ドッグとして不向きであるため、減点の対象となる。)

#### 皮 (Coat) :

全体的に白い。他の色のスポット (2cm 以上) は減点の理由となる。白い皮膚に黒い多量の色素がある場合、よいブリードとはいえない。これは隔世遺伝によるもので、他の欠点を潜在的に持っている犬と交配させたとき、優勢のものとして子孫に表出される。頭 (head) のスポットに関しては、頭部の 10% 以下であれば失格の理由とはならないが、スポットのある犬とない犬がいた場合、ないほうが好ましい。

#### 減点 (Deduct Points) :

体高が 60cm 未満、ボディのスポット (2 cm 以上)、顔面に 2 つ以上のスポット (2 cm 以上) があること、身体的な不釣り合い。狼爪は減点の対象となるが、失格とはならない。

#### 失格 (Disqualification) :

ブルー、またはライト・ブルー、その他の不適切な目の色、難聴、長い体毛、変色した鼻、上顎前出症 (prognathism) (上方下方問わず)、垂下した唇、ハウンドのような頭。

※ その他、口が十分に大きく、眼に力があり、トップラインがまっすぐであることは活動の機能性を高める上で不可欠である。